



# mui-ムイ

沖縄の古い言葉で、集落に点在する森のことを‘ムイ’と呼びます。土石や樹勢ですこし盛り上がった地形のその場所はいつしか人々の思想や活動の拠り所となりました。現場を訪れて、半世紀もあいた様々な歴史を見守ってきた施設の背景と中心市街地の喧噪を忘れさせる静けさをまとう佇まいに‘ムイ’に通じるものを感じました。私たちはそのイメージを再構築し、利用者の静寂も躍動もおおらかに包み込む新しい会館を提案します。

## 01.場所の特性

・商業地区と居住地区  
八汐荘が位置する松尾地区は那覇中央地域として沖縄県および那覇市の中心的な商業地区であり、沖縄県のシンボリックな商業・観光の拠点となっています。しかし戦後基盤整備がなされないままに街ができ、商業施設と住居が混在した密集市街地となっています。計画敷地周辺も高密度に戸建ておよび共同の住宅に隣接しているため、都市型住宅と商業・業務機能との共存に配慮した施設でなければならないと考えています。

・地域に馴染む施設として  
外部空間は積極的に緑化を行い、可能な限り外部の環境を室内へ取込むよう配慮し利用者のアメニティの向上を図ります。屋上庭園が連続する立体的な緑地空間と、ファサードの緑化パネルは周辺の都市型住宅環境へも寄与します。国際通りから松尾公園へ続く公園や緑地のネットワークの一端を担うことも考慮し、地域の憩いの拠点の中核地点となるよう計画します。

・緑をまとう  
各階に設けた屋上庭園には在来の樹木を移植します。特に交流ラウンジから繋がる屋上庭園には現敷地の樹木を移植し、異なる世代の会員の交流を自然に促すよう配置します。また通りに面する部分の庭園は西日を遮るとともに住宅密集地での高い建物の圧迫感を和らげます。

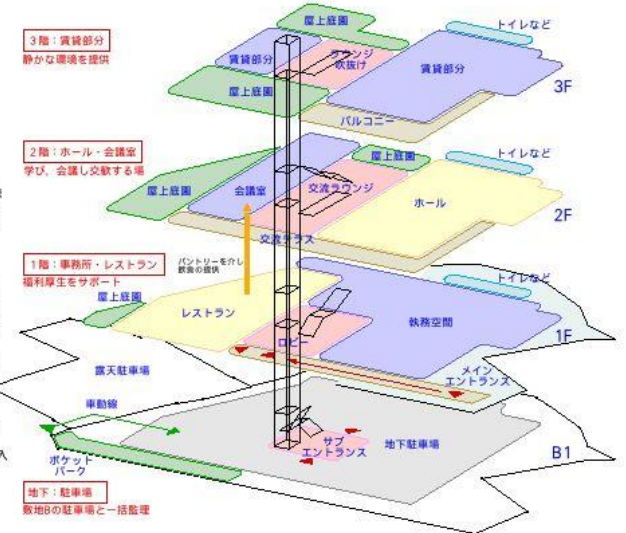


## 02.空間構成

・会員の生涯福祉の拠点  
本提案は23000人余の会員の生涯福祉を支える業務を行う場として、より快適なオフィス空間でなければならないと考えます。執務スペースは落ち着き・静寂に満ちた空間となるよう配慮します。またフレキシビリティ確保のため配線システムとして、OAフロアを採用します。

・会員同士の交流がうまれる賑わい空間  
本提案はまた、教育関係者が集い・学び・交流する場として、大人数を収容し自然と交流がうまれる賑わいの空間でなければならないと考えます。様々な利用形態に適用可能なホールからスムーズに交流ラウンジへ人が動き、開放的な吹抜けの空間が交流を促します。また施設利用者だけでなく一般への営業も行うレストランは1階・国際通り側に配置し視認性を高め、外部からも入り易いよう配慮します。

・歩行者と車が交錯しない動線計画  
メインのエントランスは前面道路に接する中央付近に浮かせて設け、歩行者は両側からプロムナードを渡ってアクセスします。駐車場は既存の駐車場(旧敷地)から繋がる地下に設け、敷地の形状を活かして北側からのみの進入とすることで管理も容易になります。







B1階平面図



1階平面図



2階平面図

主な各階面積			延べ床面積		
階	用途	面積	3階	440.63㎡	
3階	(B1) 待合・事務スペース	101.50㎡	2階	393.29㎡	
	待合室/A	261.00㎡	1階	1249.63㎡	
	待合室/B	48.00㎡	地下1階	1184.96㎡	
	待合室/C	15.78㎡	合計	4018.48㎡	
	待合室/D	37.80㎡			
2階	大ホール	255.25㎡			
	中会議室	133.00㎡			
	小会議室	129.00㎡			
	会議室	80.27㎡			
1階	(B1) 待合・事務スペース	455.70㎡			
	+待合・事務スペース	114.40㎡			
	待合室/B	407.70㎡			

Scale:1/300



西側立面図

屋根伏せ図



断面図 A

断面図 B

断面図 C

### 03.地球環境に対する配慮

- ・屋上庭園  
北西側に段状に配置した屋上庭園を配置することで緑が夏場の強い西陽を遮り熱不可の軽減に効果的な役割を果たします。
- ・太陽光発電  
屋根はフラットルーフとし、太陽光発電設備を設置します。太陽光パネルはダブルスキンとなり、屋上面の遮熱効果も高まります。
- ・雨水利用  
基礎部分を利用し雨水ビットを設け、庭園等の灌水に利用します。
- ・自然換気  
交流ラウンジの吹き抜け上部の屋根面をあげることで、排出口から熱漏れを排気するとともに、外気道の低い夜間に適温外気を取込むナイトバージをおこないます。
- ・自然光の利用  
建物中心部の交流ラウンジやエントランスはハイサイドライトから自然光を取込み照明器具の消費電力を削減します。
- ・設備  
LED電球をベースとした照明器具を採用し、さらに人感センサー付きや太陽光パネル付き屋外照明などを提案します。また衛生器具も節水器具を採用します。
- ・外構計画  
敷地Bの駐車場は保水性の高い舗装を採用し輻射熱の軽減に努めます。また建物前面は緑地スペースを確保し住宅が密集する地域に配慮します。

### ■植栽計画と屋上庭園

既存のエントランス前のシャリバイは元の位置に移植し、いままで同様、新しい植栽のシンボルツリーとします。ほかのリウキウコクタンは屋上庭園に配置します。屋上庭園は道路の高気流のある敷地にあわせてセットバックし立体的な緑地空間を形成することで、施設利用者の爽やかな環境としてだけでなく、建物のボリューム感を軽減するとともにまちに寛いをもたらします。

### 04.構造計画

- ・変化に対応できるフレキシブルな構造計画  
沖縄の気候風土にあった構造形式や材料を積極的に採用します。躯体は鉄筋コンクリート+鉄骨造とし、執務空間や大ホールなどの大スパンへの対応を可能とします。大空間を確保することで、長期的な機能の変化などに対してフレキシブルな施設となります。

### 05.ユニバーサルデザイン

沖縄県の定める「福祉のまちづくり条例」に準ずる施設とし、高齢者や障害者を含むすべての利用者が安心して過ごせるよう配慮します。



エントランスロビーイメージ

交流ラウンジイメージ

大ホールイメージ